

図書館だより

不思議な図書館

図書館長 村田 和穂



村上春樹の最新の長編小説『街とその不確かな壁』（以下『街』）は二つの点で図書館が関わっている。一つは、主人公が図書館長だという点。この小説の主人公「ぼく」は高校生の時に知り合った一学年下の女性「きみ」と文通を通して親密な関係に発展するも、ある日突然「きみ」に会えなくなる。その後、「ぼく」は大学を卒業し、書籍の取次をする会社で働きながら歳を重ねていくが、十代の頃の恋愛を引きずっている（そう、彼は独身である）。四十歳を過ぎたある日、彼は思い切って辞職し、地方の小さな図書館の館長の職を得る。そして、小さなコミュニティでごくわずかな人々——生者と死者——と関わりながら静かな生活を送る。『街』では主人公の生きる現実世界と並行して、それとは全く異なる世界、すなわち〈不確かな壁に囲まれた街〉が描かれる。この街は言わば主人公の深層意識の世界で、ここにも図書館が存在する。これが二点目。ただ、この図書館には一冊の本もなく、あるのは卵の形をした無数の〈古い夢〉。主人公の意識の核とも言うべき「私」は毎日その図書館に通い、〈夢読み〉という仕事に没頭する。「私」がこの仕事に熱心なのは、現実世界では会えなくなった女性が図書館に勤めているから・・・

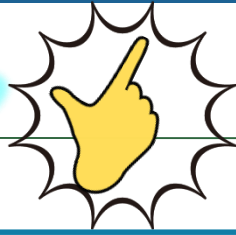
『街』の意識下の世界の造形と描写は、村上の初期の代表作『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（以下『世界の終り』）のそれに極めてよく似ている。それもそのはず、この二作は一つの種子から発生した双生児なのだ。実は、村上が作家デビューして間もない頃に「街と、その不確かな壁」という（『街』とほぼ同じ）題名の小説をある雑誌に発表したのだが、その出来栄に作者が満足できず、書籍化されなかった経緯がある。この幻の小説を大幅に書き直し、拡大したものが『世界の終り』である。村上は『世界の終り』の刊行から35年以上が経った今、別ヴァージョンの、作者の言葉を借りれば「あくまで併立し、できることなら補完しあうものとして」の小説があってもいい（『街』の「あとがき」より）、と考えたことが『街』の誕生につながったようだ。

それにしても、『街』の「私」が通う図書館は一体何を表しているのだろうか。ひとつの解釈として、図書館は村上春樹のアイデンティティの象徴と捉えることができるかもしれない。つまり、幼い頃より本に親しみ、おそらく図書館でも数多くの本を借り読破することで形成された精神の基盤としてのメタファーなのではないか。そういえば、村上作品には図書館が度々登場する。中でも印象的なのは、『ふしぎな図書館』という童話的小品。これは「図書館綺譚」という短編（『カンガル一日和』に所収）を子供にも読める平易な表現に改め、さらに佐々木マキの絵をふんだんに盛り込んだものだ。絵のおかげで、一見ほのぼのとした雰囲気があるものの、丁寧に読むととても怖い作品である。内容は、少年がいつも利用する市立図書館で、借りたい本が「禁帯出」だったため、図書館の奥の地下牢のような部屋に案内され、そこに監禁され、殺されそうになる。少年は最後どうにか図書館から脱出するのだが、大きな犠牲も伴う、という現実世界と精神世界が交錯した、『街』とも共通する、奇妙な味わいのある物語だ。興味のある人は『ふしぎな図書館』と基になった短編「図書館綺譚」を読み比べていただきたい。

話は変わるが、有明高専の図書館にも不思議な場所があるのをあなたはご存知だろうか。「書庫」と呼ばれるこの部屋には、閲覧室に配架されない数多くの本たちが退屈そうに眠っている。そこはとても長くて危険な階段を降りていかなければ辿り着けない、暗く謎めいた空間。一度訪れてみたいとは思いませんか？



私のイチオシ



一般教育科

入部 祐郁 先生

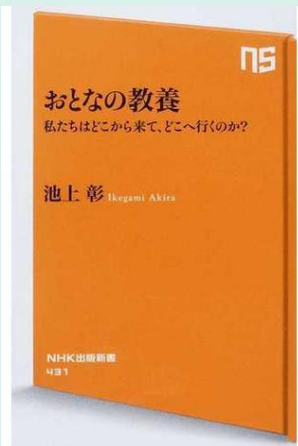


『おとなの教養』

—私たちはどこから来て、どこへ行くのか？—

(池上 彰 著)

『ゆく川の流れば、動的平衡』 (福岡 伸一 著)



『おとなの教養 私たちはどこから来て、どこへ行くのか？』

この本を初めて読んだ時の感想は「世の中のこと何も知らないな…」です。それぞれ独立していると考えていた問題が実は繋がっていたり、良いと思ってきたことが覆されたりして、自分の教養のなさを思い知らされました。本の中に「教養を学ぶことで人は様々な偏見や束縛から解放され、自由な発想や思考を展開していくことができる」と記されています。一番印象に残っているのは「ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の神はみな同じ神」という部分です。対立しているのになぜ同じ神なのか？ そう思ったあなた、そのまま図書館へ。宗教に対する考え方は今と昔では大きく違います。宗教が絶対的な力を誇っていた時代がありましたが、そのせいで科学の発展が阻まれていた側面がありました。例え

ば病気は悪魔や悪霊に取り憑かれているからではなく、当時は多くが病原体によるものでした。悪魔祓いをして治りませんから、結局科学の力を利用するほかありません。しかし、科学が発展して便利な時代になると生活習慣病が現れ、人間は新たな健康課題に向き合うことになってしまいました。こうした人類の歴史をスムーズに理解するには、宗教をはじめとした教養を学んでおく必要があります。宗教を学ぶことは世の中の成り立ちを学ぶことでもあります。もし科学の発展が何にも阻まれずに現代に至っていたとしたらタイムマシーンが完成しているか、今原稿を打ちこんでいるパソコンなど存在しない世界なのか…。越えるべきハードルがあるからこそ、人類は発展してきたのだと思います。

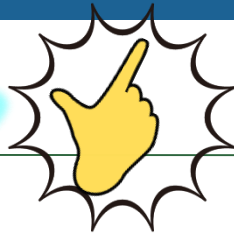
『ゆく川の流れば、動的平衡』

福岡先生は分子生物学が専門です。恩師から勧められた『動的平衡』という著者の書籍があるのですが、私にはちんぷんかんぷんでした。そこで他の著書を読んでみようとしたこの本を手に取りました。動的平衡とは、「たえず自らを壊しつつ、自らを作り変えることによって、なんとか時の試練にあらがっていること」を意味します。人間の体の細胞は約3ヶ月で全て作り換えられます。見た目は同じでも中身は全く違う人間になり、時の試練にあらがえなくなった時死を迎えます。福岡先生のこういった表現がとても素敵だと感じます。

エッセイなので専門的な話も読みやすい文章で記述されています。目には見えないけれど太古の時代から地球上で行われている営み、文化や科学が発展しても変わらない人々の本質など、福岡先生の実体験や気づきをもとに描写されています。専門的な知識を生活の中に落とし込んでいて、私には見えていない世界が福岡先生の視界には広がっているのだろうと想像しながら読み進めました。ぜひみなさんに手に取ってほしい一冊です。



私のイチオシ



一般教育科

山田 高明 先生

『遠野物語』（柳田 国男 著）



「国内の山村にして遠野よりさらに物深き所にはまた無数の山神山人の伝説あるべし。願わくはこれを語りて平地人を戦慄せしめよ。」 — 序文より

みなさんは、宮崎駿監督の『千と千尋の神隠し』を見たことはありますか？私は小学生のころ、片田舎の小さい映画館でほぼ公開と同時に観に行った記憶があります。いろんな魅力的なキャラクターが出てきますが、大根の神「おしらさま」は愛嬌のある姿で人気のキャラのひとりでしょう。幼いころから妖怪漫画家の巨魁、水木しげるを読んでいた私にとって、宮崎駿が描く異形の神々はとてもわくわくし、同時に何か根源的な不気味さを刺激するものでした。

時は過ぎて、大学一年生のとき、文学部に所属していた私は民俗学概論という講義をとりました。とてもアグレッシブな先生の情熱にこちらもどんどん引き込まれていったのをいまでもありありと覚えています。そこで出会ったのが、今回紹介する柳田国男の『遠野物語』でした。「そもそも民俗学とは…」と語り出すと紙幅がいくらあっても足りませんが、＜共同体に伝わる風俗や祭り、信仰、経済システム、社会構造などを調査する学問＞とぐらいに捉えてください。柳田国男は近代日本民俗学のパイオニアであり、その柳田の代表作が『遠野物語』です。

この作品は明治時代の岩手県遠野地方（今の遠野市周辺）が舞台です。当地を訪れた柳田国男が、地元の話蒐集家佐々木喜善から聞いた話を、ほぼそのまま手を加えずに書き起こしてまとめた、という形式をとっています。誰かが口頭で話したことをそのまま記録するこの手法は「聞き書き」と呼ばれるもので、民俗学や社会学では重要な手段です。佐々木喜善は遠野地方に伝わる様々な伝承を語ります。そこには、山の神や天狗、山男・山女、雪女、河童、化け狐、座敷童など妖怪や神に関する不思議な話や、冒頭で紹介したオシラサマ信仰や、神隠しの話も登場します。佐々木喜善の曾祖母が亡くなってまもなく、隣の部屋に曾祖母を安置し皆が寝静まろうとしていたところ、死んだはずの曾祖母がガバッと起きてふらふら歩きだし、親戚一同大騒ぎする、なんて話も出てきます（第二十二）。この作品で語られている様々な不思議な話は決して創作ではなく、佐々木喜善自身、あるいは彼の親族や知人が見聞きしたもので、彼らにとっては実際にあった出来事でした。令和の我々からするとまさかそんな、と思うかもしれませんが、百年ほど前まではそんな世界があったのです。

私は言葉を研究する言語学が専門ですが、なかでも実際にその言葉が話されている地域に赴き調査するフィールド言語学という手法をとっています。時には、携帯の電波も通じないような山奥まで行くこともあります。私は、そこで現在話されている言葉を分析することで、言語のシステムやその言語が経てきた歴史を探ろうとしています。現在伝えられているもの（言葉、文化、風俗など）から、その奥にあるシステムや歴史を解明しようとする点において、言語学と民俗学は通じるものがあります。そういうわけで、今の私の学問的関心の方向性に多大な影響を与えたものの一つが柳田国男『遠野物語』なのです。

ただし、『遠野物語』を手にとるとわかると思いますが、一見すると非常に読みにくい作品になっています。その理由は、1）文語体で書かれている、2）短い話が延々と羅列されている、という二点にあるでしょう。そこでオススメなのが、『水木しげるの遠野物語』です。ゲゲゲの鬼太郎を代表とする妖怪漫画家水木しげるが、柳田の原作にかなり忠実に漫画に改作したものです。水木しげるの独特なユーモラスかつ緻密な描線で、遠野物語の世界が実に見事に再現されています。ぜひ、手始めに漫画版を手に取り、怪異と日常の暮らしが混在する世界に飛び込んでみてください。

遠野物語
山の人生

柳田国男著



数十年前の東北の山村・遠野。伝説には必ずや深い人跡の痕跡があるはずである。それが遠野。伝説に描かれてきた、遠野の山村の生活はここにあった。『遠野物語』に描かれた山村の生活が、本書の「山の人生」は、そうした山村の生活を描く。『遠野物語』の背景を伝える記念碑的著作である。（解説：島原武夫）

書 138.1
岩波文庫

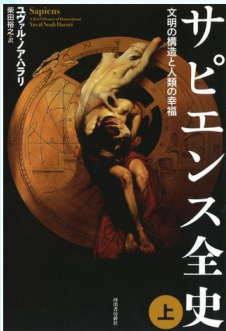


図書委員のおすすめ本

各クラスの図書委員にみなさんに薦める1冊を選んでもらいました。
新着コーナーに置いてありますので、ぜひ、手に取ってみてください。



1年1組
久保 輝藍さん



『サピエンス全史』
皆さんは、歴史の本は好きだが登場人物の名前が覚えられず挫折してしまう。そういったことはありませんか。
そんな人におすすめなのが『サピエンス全史』などの人類史です。人類史では人間社会の拡大や社会構造の変化によって起こった出来事を、人が歴史を作り始めたところから現代にかけて細かく書かれています。面白いのでぜひ読んでみてください。

『君たちはどう生きるか』
コペル君の体験や思い、考えたことを記す前半と、コペル君のおじさんがコペル君に宛てたノートで語る後半、という形で、物語が何章かに分けて展開されます。語られるテーマは倫理や資本論など固いものが多いのですが、物語の主人公は15歳の中学生であるコペル君なので、おじさんのノートも親しみやすくわかりやすい文体でした。



3年エネルギーコース
奥村 俊太さん

『Another 2001』
「死者は、誰—」

上のセリフをみて、おや？と思った人も少なくないでしょう。本作にも登場する見崎鳴が言ったこのセリフは、このシリーズの雰囲気をよく表しています。主人公は比良塚想。ぜひ、二人と「災厄」との闘いをお楽しみ下さい。



1年2組
梅本 魁斗さん



『15歳のテロリスト』
突然の犯行予告のあとに起きた新宿駅爆発事故。容疑者は渡辺篤人。この15歳の少年の犯行は、世間を震撼させた。何が、彼をそうさせたのか？少年犯罪についてとても考えさせられる内容です。

1年4組
城戸 恒希さん

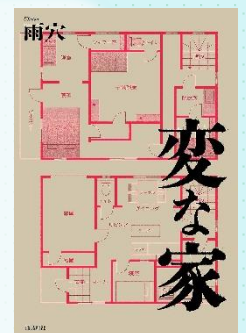


2年3組
矢加部 静香さん

『変な絵』
なんども描き直された子供の口元、木の幹に住む1匹の鳥、赤い帽子を被る赤ちゃん 一見、何の変哲もない普通の絵に見えます。しかしその絵に隠された秘密を紐解くと、一筋の「恐怖のシナリオ」が出来上がる。その変な絵をどう捉えるかは読み手の貴方次第です。

『変な家』

あなたは、この間取りの「謎」が、解けますか？都内の中古一軒家。開放的で明るい内装の、ごくありふれた物件に思えたが、間取り図に「謎の空間」が存在していた。この家は、そこかしこに「奇妙な違和感」が存在すると言う。不可解な間取りの真相は!? 謎の覆面作家・雨穴(うけつ)によるミステリー小説。



4年建築コース
佐藤 七海さん

『こども六法』

皆さんは、「六法」をご存知ですか？六法とは、憲法、刑法、民法、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法を指します。この本は、基本の六法から子どもとは関わり薄い商法を除き、少年法、いじめ防止対策推進法を加えて紹介してあります。法律の知識は皆さんを守ってくれます。是非一度手に取ってみてください。



4年情報システムコース
今村 健史さん



2年5組
住 彩乃さん

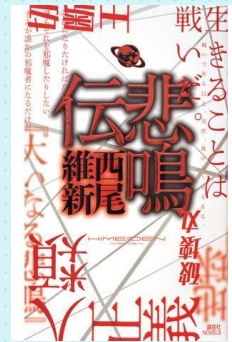
『ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人』

コロナ禍の時代に名もなき町に異常な殺人事件が起こる。犯人よりも警察よりも先に謎だらけの状態から真実を突き止める事が出来るのか——。今の現代社会にリンクしたミステリー小説となっています。読み出したら止まらない大作です。

『僕が愛したすべての君へ』、
『君を愛したひとりの僕へ』

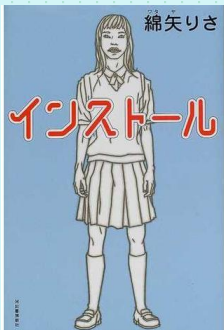
人生とは選択の連続である。お米とパンどちらを食べるか、こんな些細な選択でさえ未来は分岐するだろう。様々な分岐を往来できる世界において主人公はどんな選択を選ぶのか。超弦理論に基づくSF恋愛小説である。

5年応用化学コース
西澤 孔輔さん



5年メカニクスコース
横山 幹太さん

『悲鳴伝 <伝説>シリーズ』
大いなる悲鳴と呼ばれる大災害により人口の三分の一が死滅した世界。13才の少年 空々空(そらからく)は地球撲滅軍を名乗る組織に勧誘を受け、「人類を滅ぼさんとする悪しき地球と戦うヒーローになってほしい」と言われる。大いなる悲鳴の正体とは？そもそも地球と戦うとは？序盤から終盤まで驚愕のストーリー展開の連続で、最後まで目が離せない作品です。



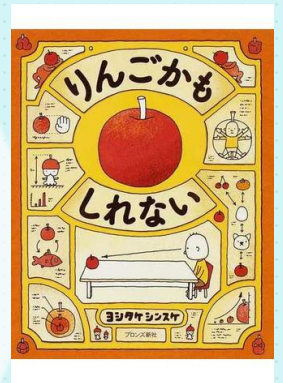
『インストール』

紹介されてこの本を手に取りましたが、おすすめの一冊です。少女誘拐犯と被害者の少女のおはなしです。登場人物の心情や既存の言葉では表せない複雑な人間関係が巧みに表現されていて、時間を忘れるほどに読み込んでしまいました。

5年建築コース
古嶋 由詩さん

1年5組
原口 玲華さん

『りんごかもしれない』
誰もが知っているであろうりんごですが、この本ではりんごに対して「もしかしたらりんごじゃないのかもしれない。」と考える主人公の不思議で豊かな想像を覗くことができます。愛らしい絵と共に様々な角度から想像することの楽しさを、ぜひ感じてみて下さい。



『僕が答える君の謎解き 1 明神凜音は間違えない』
「疑わしきは罰せず」を信条とする伊呂波透矢と、「無意識下に推理する」特技を持つが、そのせいで犯人が分かってても、証拠を提示できない明神凜音。凹凸コンビの二人が織りなす、学園ラブコメミステリー！

2年1組
野田 陽仁さん



2年2組
北村 美月さん

『「のび太」という生きかた ポケット版』
「勉強もだめ、スポーツもだめ、じゃんけんさえ勝ったことがない」という小学生、野比のび太。しかし彼は将来静香ちゃんと結婚。幸せに恵まれました。なぜ彼は良い人生を歩めたのでしょうか？「ドラえもん学」を研究する横山泰行先生が、その理由に迫ります。



2年4組
池田 晴彦さん

『復活の日』

新種のウイルスが世界中に蔓延し人類を含む地球上の爬虫類・両生類・魚類を除く脊椎動物がほとんど絶滅してしまう。唯一、南極にいた約一万人が感染を逃れた。しかし、南極が安全地帯だと知った感染者が助けを求めて押し寄せてきてしまう...

とても面白いのでぜひ読んでみてください！

『夢幻花』

『人魚の眠る家』、『流星の絆』、『ガリレオシリーズ』など映画化・ドラマ化された作品も多い東野圭吾さんのミステリー小説です。“黄色い朝顔”という謎の花を巡り起こる事件、複数の登場人物からの視点で進んでいくストーリーがやがてひとつに纏まっていく様は読んでいて飽きません。ミステリー好きな方には一度は読んで欲しい一作です。



3年環境生命コース
吉岡 美乃里さん

『世界でいちばん透きとおった物語』
 “絶対に予測不能な衝撃のラスト—あなたの見る世界は〈透きとおる〉”
 読んでる最中は特別面白さを感じなかったが、終盤1ページ目から読み直してしまいうくらい衝撃を受けました。これは読まないで損です。
 普段電子書籍を読む人でも、この本だけはぜひ紙媒体で読んでほしい1冊。
 ※ネタバレ厳禁!!



3年情報システムコース
 中西 唯央菜さん



3年建築コース
 井上 遥花さん

『罪人の選択』
 戦いに敗れ、可能な限り地球を自然の状態に戻して、文明が発展していない惑星に向き、貢献することを求められた人類。そのために、肉体を捨て去り、感情の無いチップに記憶や人格を組み込まれることへの彼らの葛藤、絶望を描いた作品。SF好き必見です!



『絶望名人カフカの人生論』
 生きることが苦しいとき、気持ち落ち込んでいるとき、死にたいと思ったとき、ポジティブになれないとき、この本を読んでもみたらいいと思います。カフカのネガティブな言葉が、きっとあなたに力を与えてくれるはずです。

4年エネルギーコース
 西山 輝さん

『収容所（ラーゲリ）から来た遺書』

終戦後11年にわたる、日本人捕虜のシベリア抑留を描いたノンフィクション。厳しい重労働の中でも人間性を失わず文化を愛し、帰国を信じ続けた男の遺した遺書。彼が創った句会の仲間達は、必ず遺書を遺族に届けると決意する。

4年環境生命コース
 坂上 結泉さん



『十五少年漂流記 ながい夏休み』
 私がお薦めする本は『十五少年漂流記』です。
 この物語は、楽しい航海旅行に出かけた少年達が、嵐に巻き込まれ無人島に辿り着いてしまい、様々な困難に立ち向かっていく冒険物語です。
 少年達による「友情」「団結力」「ドラマチックなストーリー」がみられ非常に満足できる作品です。

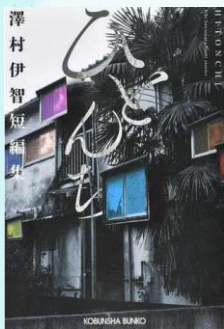
4年メカニクスコース
 松山 和樹さん



5年エネルギーコース
 山田 恭一さん



『ハンガー・ゲーム』
 首都キャピトルが12の地区を支配する国、パネム。毎年、12の地区からは少年少女が1人ずつ「贄」として選出され、最後の1人になるまで殺し合う「ハンガー・ゲーム」。デスゲーム系で駆け引きに深みがあるのでおすすめです。



『ひとつんち』
 映画『来る』の原作『ぼぎわんが来る』の作者としても知られている、澤村伊智さんの短編集です。実際にありそうだけど少し怖いような内容の話が8話収録されています。1話1話が短く、すぐに読み終わられますので、隙間時間に読むのにぴったりなおすすめの一冊です。

3年メカニクスコース
 目黒 このはさん

『天、共に在り アフガニスタン三十年の闘い』
 私が読んだ本は『天、共に在り』中村哲さんが自ら書いた自伝です。なぜ危険な戦争地帯で働いているのか、当時のアフガニスタンの状況をどうやって変えようとしたのか。
 中村さんの三十年の思いと重みが詰まっている1冊です。
 ぜひ、読んでみてください!



1年3組
 久保 夏輝さん

『アルジャーノンに花束を』
 幸せとは何か、それを考えさせられる本です。知能は、人が生きていく上で必要なものですが、果たしてそれは人間の幸福に繋がるのでしょうか。辿々しい文章で始まるこの小説。あなたは何を感じ取りますか?是非一度手に取ってみてください。

5年情報システムコース
 藤吉 祐基さん



ブックハンティングを開催しました！

ブックハンティングとは、図書館に置きたい本を学生自身に書店で直接選んでもらうイベントです。

今回は8月17日（木）に丸善博多店で実施し、4名の学生に参加してもらいました。

選んだ本のうち、特におすすめの本は参加した学生のPOP付で図書館にかざっていますので、ぜひ手に取ってみてください。

後期にも開催する予定ですので、気軽に参加してみてください！

■ハンティングした本の一覧■（既に図書館にある本を含む）

書 名	著 者
あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。	汐見 夏衛
十戒	タ木 春央
レーエンデ国物語	多崎 礼
怪物	是枝 裕和／佐野 晶
アリアドネの声	井上 真偽
治験島	岡田秀文
その謎を解いてはいけない	大滝 瓶太
レフトハンド・ブラザーフッド	知念 実希人
ドールハウスの惨劇	遠坂八重
殺人出産	村田 沙耶香
君がくれた物語は、いつか星空に輝く	いぬじゅん
逆転美人	藤崎 翔
刑事弁護士	薬丸 岳
怪物の木こり	倉井 眉介
逃亡者	中村 文則
神の子＜上＞	薬丸 岳
神の子＜下＞	薬丸 岳
アステリズムに花束を～百合SFアンソロジー～	S Fマガジン編集部
デューン砂の惑星＜上＞ 新訳版	フランク・ハーバート／酒井 昭伸
デューン砂の惑星＜中＞ 新訳版	フランク・ハーバート／酒井 昭伸
デューン砂の惑星＜下＞ 新訳版	フランク・ハーバート／酒井 昭伸
ワグネル プーチンの秘密軍隊	マラー・ガビドゥリン
岸辺露伴ルーヴルへ行く～映画ノベライズ～	北國 ばらっど／荒木 飛呂彦／小林 靖子
友罪	薬丸 岳
ブレーキング・デイ～減速の日～＜上＞	アダム・オイエバンジ
ブレーキング・デイ～減速の日～＜下＞	アダム・オイエバンジ
シンギュラリティ・トラップ	デニス・E. テイラー／金子 浩
白鳥とコウモリ	東野 圭吾
魔性の子 十二国記	小野 不由美
1週間でJavaScriptの基礎が学べる本	亀田 健司
たった1日で基本が身に付く！Ruby on Rails超入門	竹馬 カ／山田 祥寛
文系でもわかる電子回路～“中学校の知識”ですいすい読める～（大人のコース）	山下 明
温かいテクノロジー～AIの見え方が変わる 人類のこれからが知れる 22世紀への知的冒険～	林 要
汝、星のごとく	風良 ゆう
この気持ちもいつか忘れる	住野 よる
オルタナート	加藤 シゲアキ
ハンチバック	市川 沙央
行ってはいけない呪いの村	都市ボーイズ
豊田章男	片山 修
定本本田宗一郎伝～飽くなき挑戦大いなる勇氣～ 4訂版	中部 博
やりたいことをやれ	本田宗一郎
ダーク・ブルー	真保 裕一
マツダ・ロータリーエンジンの歴史 新訂版	G P企画センター
夏の約束、水の聲	椎名 寅生



特設コーナー

2023年図書館の旅 (Library Odyssey 2023)

第三回 京都府立図書館（日本最初の公共図書館、京都集書院を源流に持つ）

副館長 柳原 聖

他の図書館で学生サービスの向上につながりそうな点を見つけ帰還せよ！館長の命を受けたお気楽副館長が波動エンジン120%出力でお届けするこの企画。3回目は京都だよー！
★蔵書などの館の概要は右のQRコードからどうぞー。



図1 本館：2001年に建造

訪問では図書サービス部長 堀 奈津子様にご対応いただきました。

—私は出張などであちこちの図書館にぶらり立ち寄ったりするのが好きなのですがレトロな外観と余裕ある館内の空間が心地よく感じます。

堀）当館は明治42年に京都御苑からこちらの岡崎地区（京都市の鴨川と東山に挟まれた地区。平安神宮がある公園地区<https://kyoto-okazaki.jp/about/>）に移転しました。そのときに建築家の武田五一がフランス・ルネサンス風の外観で図書館をデザインしました。現在の図書館はその外観をファサード保存（旧建物の外壁だけを

切り出し新しい建物の外壁に貼り付けるようなやり方）した地上4階地下2階の建物となっています。（図1）

—ああ、だから日本銀行のように正面は明治の面影を残した建物になっているんですね。この明治時代の建築物の外観を踏襲することには市民の支持があったのでしょうか。

堀）はい。武田五一は関西建築の父とも言われている近代日本建築に影響を与えた人でもありファサード保存には多くの支持があったと思われます。後ほど武田五一の調度品を展示したスペースをご案内しますね。

※案内いただいたスペース（図2）

—図書館の周囲もひろびろとして心地よいですね。

堀）当館は岡崎公園の一角に立地していますが、この辺りは1895年（明治28年）、に開催された第四回内国勧業博覧会の跡地でもあるのです。

—そうなんですか。お恥ずかしい話ですがここはそのような明治時代の博覧会の跡地であったということは知りませんでした。どうりで周辺は広々として静かなわけだ...

堀）ええ、その後も次々と博覧会が開催される文化ゾーンとなり、現在は周囲には京都市京セラ美術館、京都国立近代美術館、ロームシアター京都、京都市勧業館、など文化施設が集積されています。



図2 武田五一の調度品展示スペース
武田は建築だけでなく西洋の影響を反映した家具を含め図書館の全体をデザインした。

—環境もそうですが御館のHPも充実していますね。私はここの図書館のHPで、公立図書館の運営が図書館法という法律に基づいてなされていることを知りました。ちなみに近年は図書館の運営を民間に外部委託する自治体が増えていますが、こちらの図書館はいかがでしょう？

堀）当館は府の直営になります。職員の内訳としては本務職員と言われる府職員と、年度ごとの会計年度任用職員あわせて50人弱（うち司書資格者約7割）で構成し運営しています。



図3 高い天井 余裕の演出

一数年前に我が校近県の図書館が外部委託によってリニューアルされて脚光を浴びたのでそちらを訪問したことがあるのですが、私はそこでは違和感しか感じられませんでした。それにしても、こちらでは郷土関連の資料もちゃんと保存されていて府民の文化への理解の深さを感じられたりします。ちなみに資料のデジタル化とネット閲覧についてはどういう方針でしょうか？

堀) 京都府の場合は古文書や行政文書等については、歴彩館という組織があってそちらに保存し、府立図書館は一般に流通しやすい図書資料でかつ市町村図書館のバックアップに資するものを収集する方針です。

流行のベストセラー小説などは市町村図書館が収集することが多く、府立図書館は研究に資するようなレファレンス資料中心の収集になります。資料のデジタル化については、国立国会図書館デジタルコレクション等は活用していますが、所蔵資料のデジタル化は着手できていません。よって来館していただかないといけません。

一確かに現物を手にすることでしかわからない情報（印刷、装丁、紙質）もありますね。

堀) 図書館では書架のブラウジング（注：本棚をざっと見ること）による書籍との出会いを楽しんでいただければと思います。ブラウジングをより魅力的にするために美術品をさりげなく本棚に置いたりもして、来館者にその楽しみを倍増していただけるような展覧会をしたこともあります。

一なるほど、総合的なこころの余裕の演出ですね。本日はありがとうございました。

訪問を終えての感想：

図書室、図書館の魅力とは何だろうか？私の場合は静謐な情報空間で自分を放っておいてくれる場所ではないかなと思った。情報（図書、雑誌）をぶらぶら眺めつつ、思索に耽る。まずはこれ。

「ああしなさい、こうしなさい」と言われることなく、時間と孤独を楽しめる場所であること。

加えて程よい緊張感で、周囲に思索の旅をする同志が垣間見えて「ああ、道草ばかりじゃいけない。あの人のように私も旅路（本来の思索、勉強）にもどらなきゃ」と思い返すきっかけの存在も必要だろう。

そして最後は何といっても思索の旅をするのに心地よい空間（建築、空間の演出）なのかなと気付いた。もちろん心地よさは人それぞれだけれども、私の求めているものは「余裕」。それは人によってはムダととらえられてしまうかもしれない。しかし、無用の用という言葉もある。クリエイターを目指すには余裕が必要だ。そんな気付きを改めて得た旅でした。

ではまた～！

閲覧室の窓からふと外を眺めるとローレライの妖精的少女が...一緒に写真をとったがそれは無理だったorz



おじさん、私と写真とりたくてもここは立ち入りできないわよ。ウフフ



図4 京都といえば映画文化。太秦の京都撮影所で作られた映画の台本が収集・収蔵されている。台本のなかの書き込みはスタッフか？それとも俳優か？



図5 貸し出し受付カウンター
天井には京都名所大鳥瞰図（作：吉田初三郎 京都出身）が迫る。デカい！

図書館統計

令和4年利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	24	26	25	20	19	25	24	21	19	18	22	268
入館者総数	3,272	3,802	3,896	2,524	1,721	1,618	3,753	3,700	2,881	2,699	1,977	938	32,781
(内夜間)	212	524	462	324	102	63	377	553	271	200	167	0	3,255
(内土曜日)	79	33	79	103	18	0	123	108	66	22	11	0	642
1日平均	131	158	150	101	86	85	150	154	137	142	110	43	122
貸出冊数・総数	335	240	207	143	109	124	161	135	255	147	162	49	2,067
(内夜間)	61	68	43	27	9	14	29	14	42	29	31	0	367
(内土曜日)	1	5	0	7	0	0	3	5	1	1	0	0	23
1日平均	13	10	8	6	5	7	6	6	12	8	9	2	8

分類別図書貸出冊数の推移

年 度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学(*1)	産業	芸術	語学	文学	多読	その他(*2)	合計
平成30年度	19	29	32	45	178	871	3	67	60	331	1,163	900	3,698
平成31(令和元)年度	41	78	24	100	151	981	5	57	42	446	108	782	2,815
令和2年度	12	52	39	62	118	534	1	25	31	202	108	442	1,626
令和3年度	20	69	39	62	128	635	3	17	41	269	104	457	1,844
令和4年度	12	69	28	43	223	610	4	21	33	347	116	561	2,067

利用状況の推移

年度	開館日数	利用登録状況				入館者数		貸出冊数				1日当たりの数値		1人当たりの数値	
		総数	(内学生)	(内教職員)	(内学外利用者)	総数	(内夜間、土曜日)	総数	(内学生のみの貸出冊数)	内夜間、土曜日	(内学外利用者)	1日当たり入館者数	1日当たり貸出冊数	学生1人当たり貸出冊数	利用者1人当たり貸出冊数
平成30年度	250	1,301	1,105	186	10	41,426	7,450	3,698	3,425	756	7	165.7	14.8	3.1	2.8
平成31(令和元)年度	241	1,648	1,140	215	30	39,677	6,201	2,815	2,361	606	74	165	12	2	1.7
令和2年度	252	1,334	1,119	202	13	28,165	3,125	1,626	1,425	240	70	112	6	1.3	1.2
令和3年度	267	1,607	1,120	213	10	34,655	4,409	1,844	1,632	306	59	130	7	1	1
令和4年度	268	1,291	1,121	157	13	32,781	3,997	2,067	1,677	390	113	122	8	1.5	1.6

学年別図書貸出冊数

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	専攻科1年	専攻科2年	合計
平成30年	1,389	383	355	627	279	256	137	3,426
平成31(令和元)年度	217	111	477	618	449	227	262	2,361
令和2年度	111	140	242	382	371	79	100	1,425
令和3年度	172	106	261	460	303	250	80	1,632
令和4年度	189	289	195	393	376	105	130	1,677

コロナ禍で施設の利用制限をしていたこともあり、利用が減少している時期があります。
少しずつ回復しています。

貸出ランキング

■本の貸出ランキング

順位	貸出回数	書名	著者
1	17	新TOEIC TEST出る単特急金のフレーズ	TEX加藤
2	12	今夜、世界からこの恋が消えても	一条岬
3	10	光情報工学の基礎	吉村武晃
4	9	公式TOEIC listening & reading問題集 (1)	Educational Testing Service
5	8	詳解電気回路演習 (上)	大下真二郎
5	8	CMOS OPアンプ回路実務設計の基礎 : これからアナログIC設計を学ぶ人のための	吉澤浩和
5	8	TOEIC L&R testパート1・2特急難化対策ドリル : 新形式対応	森田鉄也
5	8	スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンパス・ゼミ : 大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる!	馬場敬之
5	8	20代で得た知見	F
10	7	詳解電気回路演習 (下)	大下真二郎
10	7	フィードバック制御入門	杉江俊治, 藤田政之
10	7	編入数学徹底研究 : 大学編入試験対策 : 頻出問題と過去問題の演習	桜井基晴
10	7	新TOEIC test全力特急絶対ハイスコア	濱崎潤之輔, Kim Dae-Kyun
10	7	大学編入のための数学問題集	碓氷久 ほか
10	7	TOEIC TEST英文法問題集 : 1問20秒で速解できる!	成重寿
10	7	岸辺露伴は叫ばない : 短編小説集	維羽裕介 ほか
10	7	スバラシク実力がつくと評判の演習電磁気学キャンパス・ゼミ	高杉豊, 馬場敬之

■利用者ランキング

順位	貸出回数	利用者区分	クラス (2022年度)
1	98	教員	
2	68	教員	
3	54	学生	5M
4	49	一般利用者	
4	49	学生	5I
6	46	学生	2-4
7	45	学生	2-5
8	42	学生	3M
9	34	学生	4I
10	32	学生	1-4
10	32	学生	1-4
12	31	学生	1-3
13	30	学生	4A
14	25	学生	6I
14	25	学生	5I
14	25	学生	1-4
17	23	学生	4A
17	23	学生	4I
19	22	学生	5M
19	22	学生	4A

今回、図書館統計に加えて、新たに昨年度の人気の図書と利用者のランキングを挙げてみた。これについて分析、というか私見を述べる。

私は本とは、基本的に身銭を切って買うものだと考えている。「他人の本では学問は決して身に付かない」というのが私の信条である。だから、私の教員室は本だらけであり、来訪者は驚くことが多い。ただし教員室には業務に関係するもの、すなわち自然科学系の本をメインに揃えているので、自宅の部屋はそれ以外の人文・社会科学系の本でさらに溢れかえっている。読み切れていない本は多いが、何か思いついたときにすぐ手が届く距離に該当する本があると頼もしいので、給料は専ら図書経費に費やしてきた。また、誰かを訪ねた際は、必ずその人の本棚を見る。その人がどんな人間か、有能か否かは、そこから一目で分かる。

さて、本校図書館の貸出状況を観察してみると、実務的かつ即物的な内容のことが多い。具体的には、TOEICや問題演習など実に即物的である。これらは十中八九目的が達せられれば縁切れで、実に寂しい感じがする。

一般に、図書館が購入する本で問題や議論になる点は、即物的なものの流行(ベストセラー)的なものに対してである。入館者数や貸出数を増やしたければ、このような類のものを揃えれば達成されやすい。しかしながら、図書館の存在はそのようなもので良いのだろうか?

図書館にしかない手の届かない貴重な本はさることながら、目的の本の隣に置かれていて目に留まった本、特に古い本が、実は人生最良の一冊となるかもしれない。時代にそぐわないアナログ的な感じだが、そこが図書館の醍醐味であり、人生を豊かにするものだと思う。

なお私は、そんな本に出遭ったら、直ちにそれが古本市場に出回っていないか調べ上げる。幾らかかっても購入する。若い学生時代、「教科書は古い方が良い」と先生に言われたことがある。当時はよく分からなかったが、今となってはよく分かる。即物的でない、売り上げを狙っていない、実に内容が充実していることに感動すると共に、進んでいるはずの今を生きている自分の無学を思い知らされる。私もいつか、そのような歴史に耐える本を執筆したいと思う。

図書館の静けさは、即物的で多忙な日常から、我々を解放してくれるのではないだろうか。人には、そのような効率では測れない時間が必要である。(図書館運営室・室員 鷹林)



私のイチオシ【番外編】

『ダンス・ダンス・ダンス』（村上春樹 著）

巻頭言で紹介した『街』は非常に読み応えのある力作である。それでも、この最新作を読みながら、歳の離れた双子の兄（姉？）にあたる『世界の終り』が無性に懐かしく、早くこちらの本を読み返したいと思っていた（実際にすぐ読み返した）。村上春樹の初期の作品に共通する主人公の〈権力に対する反抗心〉、〈メンタルのタフさ〉、〈（クスッと笑わせる）ユーモア〉といった要素が、後になるほど希薄になっていくようで、読んでいて深く考えさせられるものの、愉しけれない。十代の頃より村上の著作を愛読してきた私としては、最近の長編小説はどこかしっくりこない。もっとも、これは作品の良し悪しというよりは好みの問題なのだろうか。私が若い頃の村上作品の魅力にハマりすぎて、感傷に浸っているだけなのかもしれない。特に好きなのは、『世界の終り』、『羊をめぐる冒険』、そして『ダンス・ダンス・ダンス』（以下『ダンス』）の3作品。中でも、『ダンス』は偏愛の書で、これまでに20回は読み返していると思う。気に入った作品に出会うと、本でも音楽でも映画でも何度も繰り返し接するのが自分の性癖なのだが、長編小説で20回も読み返しているのはこれだけだ（三十代半ばまでは毎年春に丁寧に読み返すのが密かな「儀式」になっていたほど）。

『ダンス』との出会いを思い出す。所蔵している単行本（上・下）の奥付を見ると「1988年10月24日第一刷発行」とだけあるので、出版されてすぐに購入したようだ。この年、私は大学5年目（留年中）を迎えていた。卒業だけはしようと決意していたが、卒業後に何をしたらよいのか全くわからなかった。そんな時期に読んだ『ダンス』は心に沁み込んだ。主人公「僕」は情報誌などに（今で言うところの）「食レポ」のようなものを書くことで、なんとか生計を立てているフリーのライターである。この仕事を「僕」は自嘲的に「文化的雪かき」と呼んでいるのだが、まず、この「文化的雪かき」という表現とその内容に強く惹かれた。次第に主人公の独立自尊の生き方に憧れを抱き、それが卒業後の人生のヒントにもなった。『ダンス』では、主人公がひょんなことから不登校の少女ユキと関わることで、物語は大きく展開していく。学校に行けていない（それ故に引け目を感じている）ユキに対して「僕」は、学校なんて行きたくないなら行く必要はないと励まし、「はっきり言って教師の80パーセントまでは無能力者かサディストだ。あるいは無能力者でサディストだ」と力説する。その通り！ この言葉に当時の私は心の中で快哉を叫んでいた（現在、自分が「教師」であることを思うと少々複雑だが、残りの20パーセントに入っていることを切に願う）。

一時期は上下巻のどちらかを常に携帯し、この作品の重要な舞台となる〈ダンキン・ドーナツ〉と〈シェーキーズ〉にも持ち込み（これら外資系のチェーン店は当時の熊本にも出店していた）、シナモンドーナツを齧りコーヒーを啜りながら、あるいは、アンチョビのピザと一緒にビールをちびちび飲みながら、登場人物たちの行動を追体験するかのよう、それこそ舐めるように読んだ。その後、大学は奇跡的に卒業でき、今は教員をやりながら、縁あって「図書館だより」にこのような文章を書かせてもらっている。ようやく自分なりの「文化的雪かき」ができるようになったのだ。（図書館長 村田）



ダンス・ダンス・ダンスダンス・ダンス・ダンス

村上春樹

村上春樹

♪ 編集後記 ♪

さて、今回は館長より村上春樹さんの本の紹介がありました。みなさんには愛読書はありますか？愛読書とまではいかずとも、小説に限らず専門書を含め、以前好きだと思った（又は感銘を受けた）本、ジャンル、作者、シリーズがある人もいるのではないのでしょうか。それらを読み返すと、やっぱりいいなと感じることが多い気がします。また、回数、年齢を重ねるうちに感じ方が変わったり、新しい発見があるように思います。

図書館の本棚をブラウジングしながら、「あ、この本読んだことある。良かった気がするな。」と思うものにもう一度手を伸ばしてみたいかがでしょうか。その本との再会がセレンディピティにつながるかもしれません。[図書係 八頭司]